



ラスボスの思想(58)



カラオケ

春日信彦





# 目次



## カラオケ老人

カラオケは、老人にも身近なものになってきましたが、私は、カラオケの語源が気になり、何の略なのか調べてみました。カラオケのカラは、「空」で、「オケ」は、オーケストラのオケと書いてありました。つまり、生伴奏の生オケの反対語ということです。

カラオケは日本発祥ですが、ヨーロッパ、中国、東南アジアでも人気娯楽になっています。ヨーロッパでは karaoke とローマ字表記されています。また、カラオケは1970年代から人気娯楽になっていますから、半世紀以上の歴史を持っています

私は保険会社に勤めていたこともあり、20代のころから歌っていますので、40年以上、カラオケのお世話になっている事になります。おそらく、ほとんどの人は、一度は、カラオケの経験があるのではないのでしょうか。

今では カラオケは若者の娯楽の一つになっていますが、1970年代はスナック、クラブにカラオケ機器が設置されていて、中高年サラリーマンの社交の一つでした。1980年代以降は、映像と歌詞が表示されるレーザーディスクが普及し、さらに、カラオケボックスが全国各地に建設されました。このころから、レーザーカラオケが、急速に、学生たちに普及したと思われます。

さらに、1990年代にはいと、通信技術の発達により、カラオケボックスでの通信カラオケが主流となりました。2000年以降は 老人の増加に伴い、カラオケ老人が急増しました。さらに、老人の集いの場として、カラオケ喫茶なるものも登場しました。また、発声は健康に良いということで、老人施設や障がい者施設では、カラオケタイムが設けられるようになりました。

私もカラオケ老人の一員ですから、健康のために歌っています。70歳前後以降の老人は、グループサウンズ・フォークソングの時代ですからタイガース、ワイルドワンズ、スパイダース、吉田拓郎、松山千春、井上陽水、などの曲を聞くと、青春がよみがえってくるのではないのでしょうか。

私は 森田公一とトップギャランの「青春時代」が好きで、現在でも歌っています。歌った回数は、ゆうに、1000回は超えていることでしょう。歌の上手下手は、さておき、歌うことが好きな人にとっては、カラオケ健康法はもってこいですね。人に聞かれるのが嫌な人は、一人カラオケで思いっきり歌うといいですね。

私は、かれこれ、カラオケ暦は40年以上になりますが、確かに、発声は健康に良いように思われます。というのも、発声には、肺活力が必要で、さらに腹筋と背筋も使い

ます。

カラオケで気付いたことの一つに、スポーツにおいて、腰椎は、最も重要な部位ですが、発声においても、とても重要だということです。というのも、私は、若いころから腰椎が痛くて、走るのが苦手でした。ところが、腰椎が徐々に改善されるにしたがって、楽に長距離が走れるようになりました。それに伴い、発声もよくなり、驚くことに、この年になって、40代以上の大きな声が出るようになりました。今後も、声が出る限り、楽しく、歌い続けたいと思っています。

ついに、今では、Tik Tok にカラオケ動画を投稿するお調子者になってしまいました。今の声が いつまで続くかはわかりませんが、この奇跡の声を動画に収め、10年後を楽しみたいと思っています。

一休川柳

\*原住民 消えて代わって 移民来る

\*原住民 何も知らずに 消えていく

\*代議制 船長一人で 舵を切る

\*AI 国家 文化壊して 人見えず

\*メガソーラー 百害あって 一利なし



---

ラスボスの思想(58)

---

著 者 春日信彦

制 作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---